

ふう

ふう

四 本表ハ中等教育ノ学校教授上ニモ実行センコトヲ期ス

参照 小学校令施行規則第二号表 (省略。本表は本集ニ所載)

(参考) 国語仮名遣改定別案

緒言

一 本案ノ改定仮名遣ハ口語文語共ニ適用スルモノトス  
二 本案ノ改定仮名遣ハ現行ノ国定小学校教科書大修正ノ場合ニ実行スルモノトス

三 本案ノ改定仮名遣ハ中等教育ノ学校教授上ニモ実行センコトヲ期ス

四 本案ノ改定仮名遣実行ニ伴ヒ五十音図中阿行ノおハをニ改メ和行ノゐハいニ、ゑハえニ改ム

第一条 おハをニ改ム

例 をかけ(御蔭) をき(沖) をし(啞)

をや(親) をのをの(各) をく(置)  
をす(押) をもふ(思) をそる(恐)

第二条 わト発音スルハわニ改ム但シ左ノ二ツノ場合ハ此限ニアラズ

(イ) 天爾遠波ノは

(ロ) 動詞ノ活用ヨリ起ルは

例 いわ(岩) いし(石原) うちわ(団扇)

うつわ(器) かわ(河) かわら(瓦)

かたわ(不具) くわ(桑) なわ(縄)

にわ(庭) あらわす(著) いつわる(伴)

をわす(御坐) くわだつ(企) たわむる(戯)

まわる(廻) やわらぐ(和) うるわし(麗)

かわゆらし(可愛) くわし(委) なげかわし(歎)

にわか(俄) きわめて(極) あわれ(噫)

但書 例 は(天爾遠波) あらは(洗) きらは(嫌)

さそは(誘) ならは(習) ひろは(拾)

まは(舞) やとは(傭) かよはす(通)

くるはす(狂) ただよはす(漂) ならはす(習)

まどはす(惑) よはす(酔) わずらはす(煩)

かはる(変) くわはる(加) そはる(添)

たまはる(賜) つたはる(伝) いはく(曰)

をもはく(思) ねがはく(願) のたまはく(宣)

うたがはし(疑) ふさはし(相応) わずらはし(煩)

附則 語源ヨリ云ヘバ本条但書ニ該当スルモノナルモ今ハ単立

語ト見做サルモノハ仍ホ本文ノ例ニ依ル

例 いわんや(況)

第三条 イト発音スルハハニ改ム但シ動詞ノ活用ヨリ起ル

例 ひハ此限ニアラズ

うぐいす(鶯) かい(貝) こい(鯉)

はい(灰) ひたい(額) しい(椎)

たましい(魂) ひいらぎ(柎) にいなめ(新嘗)

いいだまち(飯田町) ついやす(費) たいらぐ(平)

ちいさし(小) ついに(遂)

ノ但書 例 あらひ(洗) きらひ(嫌) さそひ(誘)

ならひ(習) ひろひ(拾) まひ(舞)

やとひ(傭) こひ(恋) しひ(強)

こひし(恋)

附則 語源ヨリ云ヘバ本条但書ニ該当スルモノナルモ今ハ単立

語ト見做サルルモノハ仍ホ本文ノ例ニ依ル

例 よろい(鎧) かいこ(蚕) あるいわ(或)

たらい(鹽)

第四条 おト発音スルフハをニ改ム

例 あをい(葵) あをぐ(仰) たをす(倒)

あをる(煽)

第五条 うト発音スルフハうニ改ム但シ動詞ノ活用ヨリ起ル

例 ふハ此限ニアラズ

あやうし(危)

ノ但書 例 あらふ(洗) きらふ(嫌) さそふ(誘)

ならふ(習) ひろふ(拾) まふ(舞)

やとふ(傭) こふ(恋) しふ(強)

をとろふ(衰) かふ(換) そふ(添)

たふ(堪) をしふ(教)

第六条 えト発音スルヘハえニ改ム但シ天爾遠波ノヘ及動詞

ノ活用ヨリ起ルヘハ此限ニアラズ

例 いえ(家) うえ(上) ひとえ(一重)

いにしえ(古)

ノ但書 例 へ(天爾遠波) さへ(同上) あらへ(洗)

きらへ(嫌) さそへ(誘) ならへ(習)

ひろへ(拾) まへ(舞) やとへ(傭)

をとろへ(衰) かへ(換) そへ(添)

附則 語源ヨリ云ヘバ本条但書ニ該当スルモノナルモ今ハ単立

語ト見做サルルモノハ仍ホ本文ノ例ニ依ル

例 さえぎる(遮) あえて(敢)

第七条 おト発音スルフハお列ノ下ニアリテ其長音ニ発音ス

ルモノハ一ニ改メ他ハをニ改ム

例 いをり(庵) かを(顔) しを(塩)

をーやけ(公) ほー(頬) ほーずき(酸漿)

ほりのき(朴) こりの(氷)』 にをふ(匂)  
 なをす(直) うるをふ(潤) ををふ(被)』  
 とゝる(通) いきどゝる(憤) とどこゝる(滞)  
 もよゝす(催) をゝす(仰)』 しをからし(鹹)  
 をゝきし(大) をゝし(多) とゝし(遠)』  
 なを(猶) なをざりに(等閑)

第八条 めはいニ改ム

例 いど(井戸) いのしし(猪) いざり(甍)  
 くらい(位) はらいせ(報怨) もとい(基)  
 くわい(慈姑)』 まいる(参) いる(居)  
 ひきいる(率)

第九条 ゆト発音スルうハゆニ改ム

例 うゆ(植) すゆ(据)

第十条 えト発音スルゑハえニ改ム

例 え(画) こえ(声) つくえ(机)  
 つえ(杖) すえ(末) ゆえ(故)  
 ともえ(巴)』 えむ(笑) うえ(植)  
 すえ(据)

第十一条 ぢハジニ改ム但シ左ノ三ツノ場合ハ此限ニアラズ

- (イ) 二語連合ノ音便ニ依リテ生ジタルぢ
- (ロ) 同音ノ連呼ニ依リテ生ジタルぢ

(ハ) 動詞ノだ行活用ヨリ起ルぢ

例 すじ(筋) うじ(氏) ふじ(藤)

わらじ(草鞋) くじら(鯨)

ノ但書 (イ) はなぢ(鼻血) もらひぢち(貫乳)

ひぢりめん(緋縮緬) こぢから(小力)

(ロ) ちぢむ(縮) ちぢまる(縮)

(ハ) よぢ(攀) はぢ(恥)

附則 語源ヨリ云ヘバ本条但書ニ該当スルモノナルモ今ハ単立

語ト見做サルルモノハ仍ホ本文ノ例ニ依ル

例 をじ(伯父) こーじ(麴) こーじ(小路)

第十二条 づハズニ改ム但シ左ノ三ツノ場合ハ此限ニアラズ

(イ) 二語連合ノ音便ニ依リテ生ジタルづ

(ロ) 同音ノ連呼ニ依リテ生ジタルづ

(ハ) 動詞ノだ行活用ヨリ起ルづ

例 うず(渦) みず(水) なまず(鯰)  
 あずさ(梓) うずむ(埋) さずく(授)  
 ゆずる(讓) しずむ(沈)』 しずかに(静)  
 まず(先)』 めずらし(珍) うずだかし(堆)

ノ但書 (イ) たづな(手綱) みかづき(月)

かなづち(鉄槌) かんづめ(罐詰)』

ゆきづまる(行詰)

こころづよし(心強)

(ロ) つづみ(鼓)

つきづき(月月)

つづら(葛籠)

つづく(続)

(ハ) よづ(攀)

はづ(恥)

いづ(出)

ぬきんづ(抽)

附則 語源ヨリ云へバ本条但書ニ該当スルモノナルモ今ハ単立

語ト見做サルルモノハ仍ホ本文ノ例ニ依ル

例 さかずき(盃)

いづみ(泉)

つまずく(躓)

第十三条 阿列ノ仮名ニフガ附キテ於列ノ長音ニ発音スルモ

ノハ於列ノ仮名ニ一ヲ附ス但シ動詞ノ場合ハ此限ニアラズ

例ノ一(あふヲをーニ改ムルモノ)

をーぎ(扇)

例ノ二(さふヲそーニ改ムルモノ)

をーみ(近江)

例ノ三(たふヲとーニ改ムルモノ)

そーらふ(候)

例ノ四(なふヲのーニ改ムルモノ)

とーとむ(尊)

例ノ五(はふヲほーニ改ムルモノ)

いのー(稻生)

例ノ六(まふヲもーニ改ムルモノ)

ほーる(投)

例ノ七(あふ(逢))

がもー(蒲生)

例ノ八(あふ(逢))

あたふ(与)

例ノ九(うたふ(歌))

あがなふ(購)

例ノ十(はふ(這))

うしなふ(失)

例ノ十一(かばふ(庇護))

まふ(舞)

たまふ(給)

附則 語源ヨリ云へバ本条但書ニ該当スルモノナルモ今ハ単立

語ト見做サルルモノハ仍ホ本文ノ例ニ依ル

例 すもー(角力)

第十四条 阿列ノ仮名ニウガ附キテ於列ノ長音ニ発音スルモ

ノハ於列ノ仮名ニ一ヲ附ス但シ左ノ二ツノ場合ハ此限ニア

ラズ

(イ) 動詞形容詞ノ語尾ノ音便

(ロ) 未来助動詞ウノ附キタルモノ

例ノ一(かうヲこーニ改ムルモノ)

こーがい(笄)

例ノ二(さうヲそーニ改ムルモノ)

こーべ(神戸)

例ノ三(たうヲとーニ改ムルモノ)

こーもり(蝙蝠)

例ノ四(はうヲほーニ改ムルモノ)

こーばし(馨)

例ノ五(まうヲもーニ改ムルモノ)

こー(斯)

例ノ六(さうヲそーニ改ムルモノ)

そー(然)

例ノ七(たうヲとーニ改ムルモノ)

とーげ(峠)

例ノ八(はうヲほーニ改ムルモノ)

ほーき(箒)

例ノ九(はうヲほーニ改ムルモノ)

ほーむる(葬)

例ノ十(まうヲもーニ改ムルモノ)

もーけ(儲)

例ノ十一(まうヲもーニ改ムルモノ)

もーす(申)

例ノ六(やうヲよーニ改ムルモノ)

よーか(八日)』

よーやく(漸)

よーよー(漸)

例ノ七(らうヲろーニ改ムルモノ)

くろーど(蔵人)

例ノ八(わうヲをーニ改ムルモノ)

いをー(硫黄)

但書  
例

あかう(赤)

(イ) かうて(飼)

きかう(聞)

(ロ) ゆかう(行)

あさう(浅)

(イ) ふさうて(相応)

めでたう(目出度)

(ロ) ちらさう(散)

(イ) うたうて(歌)

なう(無)

(ロ) うたう(打)

(イ) あがなうて(購)

しなう(死)

(ロ) しなう(死)

(イ) はうて(這)

あまう(甘)

(ロ) あそばう(遊)

(イ) まうて(舞)

(ロ) あゆまう(歩)

(イ) はやう(早)

(ロ) あらうて(洗)

(イ) いのらう(祈)

くらう(暗)

(ロ) よわう(弱)

第十五条 はにうガ附キテをート発音スルモノハ之ヲをーニ

改ム但シ左ノ二ツノ場合ハ此限ニアラズ

(イ) 動詞形容詞ノ語尾ノ音便

(ロ) 未来助動詞うノ附キタルモノ

例 すをー(周防)

但書  
例 (イ) あじはうて(味) こはう(強)

(ロ) あはう(逢)

第十六条 かニほガ附キテこーと発音スルモノハこーニ改ム

例 あこー(赤穂)

第十七条 阿列ノ仮名ニをガ附キテ於列ノ長音ニ発音スルモ

ノハ於列ノ仮名ニーヲ附ス

例ノ一(あをヲをーニ改ムルモノ) をーめわた(青梅綿)

例ノ二(まをヲもーニ改ムルモノ) もーかもめん(真岡木綿)

第十八条 以列ノ仮名ニふガ附キテ以列ノ長キ拗音ニ発音ス

ルモノハ以列ノ拗音ニーヲ附ス

例ノ一(ぎふヲぎゅーニ改ムルモノ) やぎゅー(柳生)

例ノ二(りふヲりゅーニ改ムルモノ) きりゅー(桐生)

第十九条 以列ノ仮名ニうガ附キテ以列ノ長キ拗音ニ発音ス

ルモノハ以列ノ拗音ニーヲ附ス但シ形容詞語尾ノ音便ハ此

限ニアラズ

例ノ一(きうヲきゅーニ改ムルモノ) あきゅーど(商人)

例ノ二(しうヲしゅーニ改ムルモノ) しゅーと(舅)

例ノ三(ひうヲひゅーニ改ムルモノ) ひゅーが(日向)

例ノ四(りうヲりゅーニ改ムルモノ) かりゅーど(狩人)

但書ノ例 『をーきう(大)』 ひさしう(久)

第二十条 字列ノ仮名ニふガ附キテ其長音ニ発音スルモノハ

字列ノ仮名ニーを附ス但シ動詞ノ語尾ハ此限ニアラズ

例ノ一(ずふヲずーニ改ムルモノ) ぐずー(葛生)

例ノ二(ゆふヲゆーニ改ムルモノ) ゆーだち(夕立)

但書ノ例 『すふ(吸)』 ゆふ(結)

附則 語源ヨリ云へバ本条但書ニ該当スルモノナルモ今ハ単立

例 ゆーぎ(結城)

第二十一条 江列ノ仮名ニふガ附キテ以列ノ長キ拗音ニ発音

スルモノハ以列ノ拗音ニーヲ附ス但シ「といふ」ナル語ノ

約リタルてふハ此限ニアラズ

例 きょー(今日)

第二十二條 よト発音スルゑハ之ヲよニ改ム

第二十三條 江列ノ仮名ニうガ附キテ以列ノ長キ拗音ニ発音

スルモノハ以列ノ拗音ニーヲ附ス但シ未来助動詞うノ附キ  
タル場合ハ此限ニアラズ

例ノ一(てうヲちよーニ改ムルモノ) ちよーず(手水)

例ノ二(めうヲみよーニ改ムルモノ) みよーと(夫婦)

但書ノ例 『ゆきませう(行)』

第二十四條 於列ノ仮名ニふガ附キテ其長音ニ発音スルモノ

ハ於列ノ仮名ニーヲ附ス但シ動詞ノ語尾ハ此限ニアラズ

例ノ一(のふヲのーニ改ムルモノ) きのー(昨日)

例ノ二(もふヲもーニ改ムルモノ) しもーさ(下総)

例ノ三(ろふヲろーニ改ムルモノ) ふくろー(梟)

附則 語源ヨリ云へバ本条但書ニ該当スルモノナルモ今ハ単立

例 かげろー(陽炎)

第二十五条 於列ノ仮名ニうガ附キテ其長音ニ発音スルモノ

ハ於列ノ仮名ニーヲ附ス但シ動詞形容詞語尾ノ音便ハ此限

ニアラズ

例ノ一(こうヲこーニ改ムルモノ) こーじ(小路)

例ノ二(とうヲとーニ改ムルモノ) とーじ(杜氏)

例ノ三(ぼうヲぼーニ改ムルモノ) いぬぼー(犬吠)

例ノ四(もうヲもーニ改ムルモノ)

いもーと(妹)』  
もー(最早)

例ノ五(ようヲよーニ改ムルモノ)

よーべ(昨夜)  
しろーと(素人)

例ノ六(ろうヲろーニ改ムルモノ)

をもうて(思)』  
そろうて(揃)』

かようて(通)』 よう(善)』  
をもしろう(面白)

第二十六条 とニをガ附キテとト発音スルモノハ之ヲとー

ニ改ム

例 とー(十)

第二十七条 添音ト称スルモノハーヲ用ヒテ表記ス

例 ふー(夫婦)

ねーさま(姉様)』 ぴーかぴか(煌々)

ひーらひら(片々)』 なーに(何) かのー(狩野)

第二十八条 感歎詞及擬声語ノ中ノ長ク引ク音ハーヲ用ヒテ

表記ス

例 あー

さー

雨がざーざー

笛がぴーぴー』 鳥がかーかー

牛がもーもー

第二十九条 字音ヲ借りテ国音ヲ表記シタルモノ及素ト字音

ナリシモ国音ノ例ニ依リテ変化セシモノハ共ニ前諸条ノ例

ニ依ル

例 あわ(阿波)

をき(隠岐)

こーず(国府津)

びわ(琵琶)

第三十条 文語ノ一段活用二段活用加行変格及佐行変格ノ動

詞ヲ口語ニテ未来ニ用フルトキハ左ノ例ニ依リテ表記ス

例 いやう(射)

けよう(厥)

うけよう(受)

をきよう(起)

こよう(来)

しょう(為)

本案の理由

国語ヲ総テ発音的ニ改ムルコトハ理想トシテハ可ナリト雖モ之ヲ急激ニ実行セントスルトキハ大ニ世間ノ慣用ト衝突シ又甚シク歴史的な文法ヲ破壊スル等種々ノ差支ヲ生ジ却テ目的ヲ達スル能ハザルノ虞アリ故ニ本案ハ実行上ノ便宜等ヲ鑑ミ最モ穩当ナリト認ムル方法ヲ採用シタリ本案ノ精神トシタル要点左ノ如シ

(一) 動詞ノ活用ヨリ起ル仮名遣ハ成ルベク之ヲ改メズ例ヘバ

「通フ」ナル波行四段活用自動詞又ハ其レヨリ転ジタル「通

ハス」ナル波行四段活用他動詞ノ如キ其「ハヒフヘ」ハ「ワ

イウエ」ト発音スルニ拘ラズ從來ノ儘ニ据置キタリ是レ此

ノ如キ仮名遣ハ比較的容易ナルモノニシテ簡易ナル一定ノ

規則ニ依リ之ヲ學習シ得ベク少シク教育アル者ハ之ガ実行

ニ慣レテ其困難ヲ訴ヘザルノミナラズ之ヲ「通ウ」「通ワス」

ニ改ムルトキハ忽チ普通ノ漢字交リ文ト衝突スベケレバ

ナリ又動詞マフ(舞フ)ヲ「モー」ト改ムルトキハ文法上ノ説

明ニ革新ヲ要スルノミナラズ之ヲ漢字ト仮名トニテ表記スルニハ「舞」トセザルベカラズシテ大ニ世間ノ慣用ト衝突スベケレバナリ

(二) 天爾遠波ハ普通ノ漢字交リ文ニ於テハ之ヲ仮名ニテ表記スルモノニシテ且學習上甚シキ困難ナキヲ以テ是レ亦其仮名遣ヲ從來ノ儘ニ据置キタリ

要スルニ本案仮名遣改定法実行ノ曉普通ノ漢字交リ文ニ對シテハ其衝突極メテ稀ナリ例ヘバ「カハ」(河)ヲ「カワ」ト改メ「カヒ」(貝)ヲ「カイ」ト改メ「ツヒユ」(潰ユ)ヲ「ツイユ」ト改メ「アヤフシ」(危シ)ヲ「アヤウシ」ト改メ「タフス」(倒ス)ヲ「タラス」ト改メ「イヘ」(家)ヲ「イエ」ト改メ「カホ」(顔)ヲ「カラ」ト改ムルノ類多数ナルモ是等ノ「ハ」「ヒ」「フ」「ヘ」「ホ」ハ動詞形容詞ノ語尾又ハ天爾遠波ト異ナリ普通ノ漢字交リ文ニ於ケル漢字中ニ隠レテ外ニ顯ハレザル仮名ナルヲ以テ毫モ漢字交リ文ノ用例ニ牴触セザルナリ而モ本案ハ之ニ依リテ一般ノ人ノ困難トシテ記憶スル者少キ繁雜ナル仮名遣ヲ廢スルヲ以テ將來ノ理想トスル音韻文字採用ノ時代ニ到達スルニ至ルマデ即チ漢字節減仮名奨励ノ過渡時代ニ於テ教育上適切ナル改定法ナリト信ズ若シ夫レ「ナホ」(猶)ヲ「ナヲ」ト改ムルガ為ニ送仮名ノ場合ニ「猶ヲ」ト送ルガ如キハ通常ノ漢字交リ文ノ用例ニ牴触スルヲ免レズト雖モ是等ハ本案ニ於ケル稀有ノ例ナリ

國語仮名遣改定別案ニ依レル文例

## 其 一

タロー ハ ヨイ コドモ デス。ウチ デハ、ヲトーサン  
ヤヲカーサン ノ イフ コト ヲ ヨク キキマス。  
ガッコー デハ、センセー ノ ヲシヘ ヲ マモツテ、ヨ  
ク ベンキョーシマス。ウンドー モ シマス。  
タロー ハ キット カシコイ ヒト ニ ナリマセウ。

## 其 二

瓜生岩<sup>うりゆいお</sup>は福島県の人なり。十七歳のとき、会津藩士瓜生氏<sup>あいづ</sup>に嫁ぎたりしが、よく夫としゅーと、しゅーとめとにつかへ、下男、下女をいたわり、もっぱら家事をばげみたりしかば、家<sup>いえ</sup>のもの、みな、むつみあひて、楽しく、くらしたりき。

## 其 三

夫れ女子は男子に等しく生れて父母に養育せらるゝの約束なれば其成長に至るまで両親の責任軽からずと知る可し多産又は病身の母なれば乳母を雇ふも母体衛生の爲めに止むを得ざれども成る可くば実母の乳を以て養ふ可し母体平生の健康大切なる所以なり小兒は牛乳を以て養ふべしと云ひ財産家は乳母を雇ふこと易しとて母に乳あるも態と之を授けずして恰も我子の生立<sup>せいたち</sup>を傍觀する者なきにあらざ大なる心得違にして自然の理に背く者と云ふ可し

備考 文中新定ノ仮名遣ガ旧來ノ仮名遣ニ代ル場合ニハ之ヲ明

ニスル為メ字傍ニ直線ヲ附シ置ケリ